



# JR東労組仙台地本 FAXニュース

2018年 4月13日

NO. 68

発行: 仙台地本教宣部

## 第35回臨時大会 大会宣言

### 大会宣言

私たちは本日、ホテルイースト21東京で「職場の声を尊重し、全組合員が納得と共感を持てる運動づくりで新たなJR東労組を創り上げよう！」をスローガンに第35回臨時大会を開催した。

今臨時大会は代議員の切実な開催請求によって実現した大会である。そのことを中央執行委員会には謙虚に受け止め開催に向けた努力が求められたのであった。しかし、あろうことにJR東労組の最高責任者である吉川執行委員長は「臨時大会を混乱させるよう期待する」など臨大破壊の発言を行い、組合員を唆したのである。さらに第13回臨時中央執行委員会において中央執行委員12名は第35回臨時大会開催の機関決定を反故にし「臨時大会は規約違反である」と個人的な意見に終始し途中退席する前代未聞の臨時大会破壊に翻弄した。私たちはこのような暴挙を断じて認めることはできない。

それはJR東労組の現状は組合員の半数以上が脱退するという結成以来最大の危機を招いているからだ。18春闘のたたかいを通じて生み出した大量脱退はJR東労組の歴史を水泡に帰するかのよう事態となっている。あらためて多くの組合員の皆さんに多大な不安と動揺を与え、苦しめてしまったことを深く謝罪し、JR東労組への不信感を生み出し職場を混乱させてしまった一切の責任は本部にあることを明確にしなければならない。

本部は大会発言にあったように組合員の意見に耳を傾け共に議論し方針を練り上げていく姿勢の欠如、戦術のみが先行し社会情勢の見極める力、彼我の力関係などを見誤ったことなど多くの指摘を真摯に受け止めなければならない。そして、二度と痛苦な過ちを繰り返さないことを心に深く刻み、誠実に組合員と向き合い組織体制を再構築するために邁進していく決意である。

2月26日、会社から「労使共同宣言」の失効通告を受ける事態となった。これは「労使間の取扱いに関する協約」の第70条（平和条項）は「会社及び組合は、団体交渉を経なければ争議行為は行わない」となっており、なぜ、組合が労働協約を破り労使共同宣言を破棄される道を選んだのか、私たちは「経過、判断、責任」に真摯に向き合い具体的に総括をしていかなければならない。JR東労組は労使関係について、これまで以上に信義誠実の原則に従い「労働協約」に則り、平和裡な話し合いを基本とし、労使双方で自主的に解決を図るために精力的に団体交渉等を行い、職場の諸問題解決や施策の実施・検証など議論をつくり出していくものである。

会社による不当労働行為などによって組織内に混乱が生じている中で、脱退せずJR東労組の旗を堅持するため苦しくとも歯を食いしばって賢明に奮闘している役員・組合員がいる。その声は「一日も早く事態を収束させ、元の正常な職場に戻してほしい」という意見が大半である。

私たちは「抵抗とヒューマニズム」を根底にすえ、未来に向け新たなJR東労組運動をつくりあげるためにも今一度、組合員のための当たり前の労働組合運動を再生させ「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある職場を取り戻し、明るく元気にJR東労組運動を推し進め全機関・全組合員の総団結を強く訴える。

以上 宣言する。

2018年4月12日  
東日本旅客鉄道労働組合  
第35回臨時大会

# 未来へ向けた 新たなJR東労組運動をつくり上げよう！